

## 2009 SUPER GT 第6戦 鈴鹿

◇◆◇作戦が奏功するチームをトラブルが遅い、11位に◇◆◇

■2009年8月22～23日

■三重県・鈴鹿サーキット

■No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R 予選：10位 / 決勝：11位

◆8月22日 予選

【今季初ノックダウン予選に挑み、10番手へ】

夏の厳しい暑さ、シリーズ最長のレースディスタンスとなる第6戦の戦い。舞台は三重・鈴鹿サーキット、今回の1戦は38回を迎える鈴鹿の伝統レースでもある。

今年は、これまでの1000kmから700kmへと距離が短縮されたが、過酷な戦いであることには違いない。

この鈴鹿が終わると、シーズンもいよいよ後半戦へと突入するだけに、なんとしても、この場所でいい成績を残したいところだ。

まず、土曜の朝に行われたフリー走行では、持ち込みのセッティング確認からスタート。

さらに週末に使用するタイヤチョイス、チェックなど、細かなメニューを消化した。

なお、今回の予選はいつものスーパーラップに代わり、「ノックダウン方式」が採用。

予選を3つのセッションに分け、その都度、出走台数を減らしていくやり方だ。

また、セッション1 (S1) はチームの両ドライバーが出走し、アタック。

そしてS2とS3では同じドライバーのアタックは認められないルールが適用された。

これを受け、チームでは、S2でJ・P・デ・オリベイラ選手を投入、最後のS3で荒がアタックする予定を組んだ。

午後2時40分、予選のS1がスタート。まずはGT300との混走時間帯に荒が

予選通過基準タイムをクリアし、その後、オリベイラ選手がアタックへ。

9番手でセッションを終え、S2への進出を果たした。

S2での時間は10分。アタックする12台のうち、上位8台が最後のS3へと進出できる。

オリベイラ選手は渾身のアタックで1'56.725のタイムをマーク。

一時は6番手のポジションにつけていたが、セッション終了目前に、

タイムアップする車両が現れ、10番手に。惜しくもS3への出走へは至らず、予選を終えた。

なお、今回の決勝では日没後にも出走が続くため、午後6時30分からはヘッドライトを点灯してのフリー走行を実施。決勝に向けての準備などを進めることとなった。

#### ◇ドライバーコメント◇

朝のセッションはいつもと変わらぬ作業を行いました。まずはクルマのセットアップ、そしてタイヤ確認などをしましたが、今回用意したタイヤは、ロングディスタンスでの方向を

狙ったものです。ノックダウン方式の予選だったので、まず2人でアタックする可能性を考え、

またセッティングでは速く走ることを少し視野に入れてのクルマ作りを進めました。

S3に進めなかったのは残念ですが、クルマそのものはだんだん良くなっていると思います。

欲を言えば、全体的には調整が微妙な部分で少しずつ足りなかった感じがします。決勝では、強くて安定した走りができるよう、引き続き作業を進めていきたいですね。

明日は粘りの走りが見せられるよう、頑張ります。

#### ◇監督コメント◇

鈴鹿の戦いは長丁場なので、予選順位はあまり気にしなくてもいいんです。

なので、今日の結果は正直少し助かったような気がしますね。明日のレースではミスなく、

粘りの走りができれば、有利な展開になるのではないのでしょうか。

チームとしては、ピット戦略や1周ごとのラップタイムのアベレージなどを上げ、結果として、予選よりもいい要素を出せたらいいと思います。

理想としては5位以内でフィニッシュしてしっかりポイントを稼ぐことです。

#### ◆8月23日 決勝

【後半まさかのマシントラブルが発生。悔しい結果に終わる】

決勝を迎えた日曜の朝。前日よりも青空がまぶしく、太陽の陽もじりじりと照りつ

ける。

気温はもちろん路面温度までぐんぐん上昇、朝のフリー走行は暑さとの戦いとなった。

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rには、まずオリベ이라選手が乗り込みコースへ。

前日から進めている微調整のチェックなどを行い、7周を消化。荒へとスイッチした。

ところがクルマに電気系トラブルが発生。荒は出走もそこそこにマシンをピットへと戻す。

すぐさまトラブルシューティングをスタッフが始めたが、時間を要し、このままセッションは終了となった。

午前中の快晴はどこへやら、午後に入ると風が強くなり、上空は次第に曇り空へ。午後3時にスタートするレースを前に、雲行きが怪しくなってきた。

マシン修復も無事終了、ダミーグリッドへとマシンをつけたNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-R。

700kmのレースを行うにあたり、今回は3度のピットインが義務付けられている。まず最初のルーティンワークをどのタイミングで行うのか、そしてピット作業でうまくライバルたちを出し抜くことができるのか…。コース上を走るドライバー、そしてチームスタッフ総出の“熱い”戦いがスタートした。

スタート直前、西コースでポツリと雨が落ちてきたという情報が入るも、無事ドライコンディションでレースは周回を重ねていく。スタートドライバーのオリベ이라選手は

オープニングラップで2台のマシンをパス、10番手から8番手へとポジションを引き上げた。

序盤は大きな変動もなく、均衡した戦いが続き、やや大人しい展開に。

そして30周を過ぎると、最初のルーティンワークが始まり、ピットがにぎやかになった。

それを横目に、オリベ이라選手は依然周回を続行。34周を終えてマシンをピットに戻した。

GT500の中で最後まで周回を伸ばしたぶん、給油時間はライバルたちよりもやや長かったが、

作業そのものは一切のムダもない完璧な仕事ぶり。

バトンを受け継いだ荒も、コンスタントにラップタイムを刻み、ポジションアップ

の機会を伺った。

2度目のルーティンワークは61周を終えた時点。

このときはタイミングを同じくするGT500クラスの車両もいたが、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rはその中でもダントツの速さで作業を完了。2度目のスティントとなったオリベイヤ選手は、日が次第に傾き、気温温、路面温度が下がるとさらにペースをあげて順調にレースを消化。ポジションも5番手まで浮上した。

そんな中、迎えた85周目。2位走行中のクルマがアクシデントで失火。コース上でクルマを止め、消火作業が行われたため、SCカーが導入された。さらに、一旦メインストレート上でポジション確認と隊列を整えるため、車両が停止。改めてSCカー先導による再スタートが切られることとなった。

この時点でオリベイヤ選手は4番手を走行。前車とのタイム差もSCカーランで帳消しされるため、表彰台が一気に近づいてくる…。そのはずだったのだが、なんと、再スタートでNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rが出遅れてしまう。なかなかスタートが切れず、1コーナーに向って下り坂である鈴鹿のコース特性を活かしてなんとか自力スタートを切ったオリベイヤ選手。しかしマシントラブルであることには間違いない。ピットへとマシンを戻し、一連のルーティンワークを済ませたが、荒がスタートを切ろうとしても、やはりエンジンに火が入らず、スタートできない。スタッフがピットへとクルマを戻し、修復作業が始まった。

結果、エンジンスターターの電気系トラブルと判明、手際よく修復を済ませ、コースへと舞い戻った荒。だが、この時点でトップとはすでに2週の差が。上位への復帰は極めて難しい状況へと置かれてしまったが、荒はライバルと変わらぬレースラップを刻み、周回を重ねていった。

午後6時半を過ぎると、コース上のクルマはヘッドライトの点灯を始め、日の落ちたコースからは、ライトの線が幾重にも伸びていく。その中で、最後まで快調な走り続けた荒。No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは11位でチェッカーフラッグを受けた。

◇ドライバーコメント◇

トラブル以外、今日のレースはすべて良かったと思います。  
レースなので、こういうトラブルが起こることもあるので、仕方ないですね。  
チームのスタッフはみんな一生懸命に仕事をしてくれましたし、  
今後はこういうトラブルが再発しないよう、しっかりやると言ってくれました。  
またみんなで頑張るだけです。  
修復後は最後まできっちりといいペースで走ることができましたのは、良かったです。  
悔しいですが、皆仕事はキチンとこなせていたので、また気持ちを切り替えてやるだけです。

◇監督コメント◇

今回のレースでは、ツメの甘さが出てしまったと思います。予想できないトラブルですが、  
前回の菅生、そして今回の鈴鹿でトラブルが重なってしまったというのは、  
どこかまだチームに緊張感が足りていないのかもしれませんが。  
とはいえ、レースでの戦略、ドライバーの走り、ピットでの作業はどれもみな良かった。  
でも、戦いとして流れがなかったということです。もう一度気を引き締めて、  
残り3戦のレースで勝ちに行きます。  
チャンピオンはまだ手の届くところにあると思うし、新たな気持ちで頑張ります。